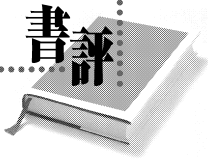


書評



Lorna Myers 原著, 兼本浩祐 監訳, 谷口 豪 訳

心因性非てんかん性発作への
アプローチ

中里信和

心因性非てんかん性発作 (Psychogenic Non-Epileptic Seizure : PNES) とは、感情的問題が引き金で生じる発作であり、脳の電氣的興奮が原因のてんかん発作とは病態が異なる。てんかん発作と酷似するためベテラン医師でも鑑別が難しく、患者によっては真のてんかん発作に合併する場合もあり、臨床現場では診療に苦慮する場合が少なくない。本書は米国の臨床心理士が執筆した書籍を、てんかんを専門とする精神科医の谷口豪先生が訳したものである。谷口先生は、てんかんとその周辺疾患の心の問題について造詣が深いだけでなく、患者の生活全般にわたる広い視野を持ちつつ社会全体に対しての啓発活動にも積極的に取り組んでいる。

原著者は執筆の「第1の目的はPNESの患者の教育」であるとして、「教育を受けた患者は(中略)ドクターショッピングをするのをやめ(中略)、患者自身が治療を強力に主導できるようになるのです」と書き出している(「原書の序」より)。さらに「第2の目的は、患者の家族や愛する人たち、医療従事者、そして一般の多くの人にこの病気を知ってもらうこと」と述べられている。

ただし本書の前半部分は医学書スタイルのため、患者にはやや敷居が高い印象を受ける。本書が述べているように、患者は自分に関係する本書の部分をセラピストと共有するのが理想型であろう。医師や心理士が最初に読んで本書の構成を理解しておいて、次に患者や家族に本書を薦めてみる手順が、疾患教育には現実的で

はなかろうか。

章が進むにつれて、てんかん学(神経学)的内容から、精神医学的・臨床心理学的な内容に変わる。心的外傷の役割、誘発因子、不安のコントロール、ポジティブ心理学、などの章になるにつれ、読みやすさがどんどん増す。読者が患者である場合は、前半部の難しさにめげずに後半を楽しんでもらいたい。後半では具体的な生活指導まで細かく記載されている。最後のソローの引用「あなたが思い描いた人生を生きなさい」で、本書はクライマックスを迎える。

監訳の兼本浩祐先生は、てんかんに詳しい精神科医としての国際的リーダーである。本書には兼本先生がコラムを書き下ろしている。「PNESにおいて薬物療法は常に副次的である(中略)。PNESそのものに関しては、プラセボ効果以上の効能が投薬にあるのかどうか常に注意を払うべきである」(33ページ)は名言だ。さらに、医師が臨床心理士や精神科医の助けを借りずに対処する方法として、患者の継続可能な受け入れ体制をつくる、病名告知が治療にも反治療にもなる、社会環境と本人との距離を調節する、の3点が述べられている部分も迫力がある。オーケストラの翻訳部とピアノ独奏のコラムがマッチしたコンチェルトのようなすてきな本である。

(東北大学院教授・てんかん学分野)

●A5 208頁 2015年7月 定価: 本体 3,400
円+税 医学書院刊